

インシデント・アクシデント報告（児童発達）令和2年4月～12月（12/28付）

*4月は新型コロナウイルス対策のため、ぼてと活動日数が通常よりは少ない。

月	総数	時間						男女比		場所別										事故の分類（何があった）											理由						
		8時台	9時台	10時台	13時台	14時台	15時台	男	女	遊戯室	中庭	児童室	放課後部屋	駐車場	畑・海・川・公園	車内	廊下・トイレ	その他	転倒	転落	衝突	打撲	捻挫	指はさみ	噛みつき・ひっかき	外傷（擦り傷・切り傷）	アレルギー	感染症（発熱・嘔吐）	車内トラブル	他害行為	脱走・飛び出し	その他	活動内容・周辺状況	要因の遊具・用具	子ども同士の関り	特性	不明
4月	13	2	3	0	4	4	0	13	0	8	0	3	0	0	1	0	1	0	3	2	2	1	0	1	1	2	0	0	0	1	0	0	4	4	2	2	1
5月	42	3	6	0	16	16	1	39	3	18	5	12	3	2	0	1	1	0	4	2	5	9	1	2	4	5	0	0	1	8	1	0	8	11	13	10	0
6月	35	0	5	2	0	15	13	28	7	12	0	16	0	0	0	2	4	1	6	1	1	1	1	0	6	8	0	1	0	7	0	3	10	6	14	3	2
7月	33	0	5	7	0	13	8	27	6	19	1	12	0	0	0	0	1	0	2	1	4	11	1	0	3	8	0	0	3	0	0	13	7	10	3	0	
8月	41	0	3	13	1	13	11	36	5	23	0	15	0	2	0	0	1	0	6	4	10	5	0	1	0	4	3	0	0	8	0	0	20	4	12	5	0
9月	36	0	7	6	0	15	8	26	10	13	3	15	1	0	0	0	3	1	3	4	6	13	0	3	1	2	1	0	0	0	0	3	13	9	5	7	2
10月	37	0	8	2	1	16	10	31	6	18	0	13	0	2	0	1	3	0	8	1	5	8	0	0	0	3	1	0	1	5	1	4	20	7	6	4	0
11月	20	0	0	3	0	9	8	15	5	2	3	12	0	0	0	2	0	1	1	0	0	9	0	0	0	3	0	0	0	5	2	0	7	1	1	9	2
12月	22	0	1	7	2	8	4	17	5	5	5	6	0	2	0	1	2	1	5	2	2	3	0	1	0	6	0	0	0	0	2	1	13	3	3	2	1
合計	279	5	38	40	24	109	63	232	47	118	17	104	4	8	1	7	16	4	38	17	35	60	3	8	15	41	5	1	2	37	6	11	108	52	66	45	8

・12月インシデント件数は20件 児童に関する事案13件（特性に関するもの11、車外飛び出し1、他児トラブル1）、物品・環境に関する事案5件（寒さ対策、園庭入り口、雨の日の階段、ムカデ、トイレドア）事務に関する事案2件（職員置き忘れジュース1、お菓子1）

1月対策として

活動に関すること

- ・中庭でのはさみの使用⇒基本、職員の管理下・責任において取り扱いを行う。（カッター使用に関しても同じく）
- ・フリスビーに伴う打撲事案⇒集団遊びの前の待ち時間は、職員・利用児が揃うまでの時間、活動内容を検討する。
- ・ドアの指はさみ事案⇒子ども同士の関わりもあるが、ドアクッションの劣化も見られるので、確認交換進めていく。
- ・帰る前の対策として、一度中庭から出る際に、フェンス前で送迎車に乗る児童とスタッフがそろったことを確認してから移動することを徹底する（今後も継続して続ける）
- ・駐車場入り口と中庭入口の施錠⇒中庭での活動で「つい」「うっかり」はあり得る必ず職員で施錠を徹底していく。

送迎に関することについて

- ・各子ども園・幼稚園の入り口施錠操作⇒呼称・指さしするなど職員で確実に行う。
- ・操縦操作について⇒駐車場から出る際、ゆっくり出るなど安全で児童に優しい操作を心がける。
- ・車内からの飛び出し⇒特定の児ではあるので、特性と捉え、注意して関わる。

環境整備に関して

- ・机や椅子のねじはずれ・サッカーゴールのねじ外れ⇒環境整備する中で発見に至る、今後も環境整備の取り組みを全職員意識して行う
- ・階段からの転倒⇒今回は子ども同士の関わりであったが、段差（上段14cm、中段14.5cm、下段13.5cm）があるので、今後も注意していく。
- ・寒さ対策も含め、室内に温度・湿度計設置するか検討する。

特性への対応に関して

- ・机上の活動での机をガタガタさせる⇒特性を捉え、対策・支援行う。
- ・危険予測の弱さ、噛みつき、脱走、飛び出し周辺視野の狭さからくる怪我に関しては、個別支援を進めていく
- ・他児トラブル（特定の児、組み合わせは存在する）についても、傾向をつかみ対応を進める。

⇒先月に引き続き、予測を立てた上での対策を各職員がとれていることで、事故に至らず未然に防いでいる事案が増えてきている